

9月1日は防災の日

家族で災害時の連絡体制の確認を

昨年、県で第4次地震被害想定が発表されました。被害を想定よりも少なくするためには、自分の命を自分で守る「自助」と、地域で助け合う「共助」が重要です。家具の転倒を防止したり防災訓練に参加したりし、災害に備えましょう。



市民部 防災交通課
995-1817

自助 自分の命は自分で守る

●備蓄品・持ち出し品の確認

備蓄品は一人当たり、飲料水は最低9ℓ（3日分）、食料品は7日分（うち調理不要食3日分）を用意しましょう。また、医薬品や電池などは定期的に点検し、使用期限の過ぎたものは新しいものに交換しましょう。

●昭和56年以前の建物は耐震診断を！

昭和56年以前に建てられた建物は、耐震診断を受け、必要に応じて補強しましょう。それ以降に建てた建物でも危険がないとはいえませんので、不安があれば耐震診断を受けてください。

●家具の大きさにあった転倒防止器具の取付け

家具は壁に密着させて固定し、家具の大きさにあった転倒防止器具を取り付けましょう。また、重いものは高い場所に置かないようにしてください。

●家族防災会議…有事のときの連絡は

家族で災害への備えをし、災害が起きたときの対応などを決めておくことが大切です。例えば、避難場所までの経路を実際に歩き、道沿いの危険箇所を確認しておくのも備えの一つです。

災害が起きたとき、家族が離ればなれになると通信機器で連絡を取ることが困難になります。家族の安否確認には災害用伝言ダイヤルを利用するなど、事前に連絡体制を確認しましょう。



災害用伝言ダイヤル 171

災害用伝言ダイヤルは、地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。「171」とダイヤル後、音声案内に従い伝言の録音や再生を行うことができます。

共助 地域で助け合う

大きな災害を乗り越えるには、多くの人手と助け合いが必要です。防災の日に併せて防災訓練を計画している区があります。地域の防災能力を向上させ、自分自身・家族の命を守る訓練です。向こう三軒両隣で声を掛け合い、積極的に参加しましょう。



ヤフー(株)と災害協定を締結しました

災害が起きた時、必要な情報を市民に迅速に伝え、市の行政機能の低下を軽減させるため、ヤフー(株)と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結しました。

協定の主な内容

- ①緊急時にヤフーが作成した市ホームページのキャッシュサイトを「Yahoo! JAPAN」に掲載し、アクセスが集中してつながりにくい状況になることを防止します。
 - ②被害状況や避難所情報、安否情報などを「Yahoo! JAPAN」や「Yahoo! 防災速報アプリ」で配信し、広く周知します。
 - ③平常時から市指定の避難所などの防災情報を「Yahoo! JAPAN」に掲載し、防災意識を高め、災害に備えます。
- ◆まずは「Yahoo! 防災速報アプリ」を導入してみてください。台風など、身近な災害でも警報などの情報が通知されます。